

平成 26 年 度
事 業 報 告 書

自 平成 26 年 4 月 1日

至 平成 27 年 3 月 31日

公益財団法人 北九州産業学術推進機構

目次

■ 事業の概要 1
---------	---------

■ 具体的な取り組み

【公益目的事業会計】

1 アジアにかかれた学術研究拠点の形成

(1) 大学間連携促進事業 5
(2) 留学生支援事業 5
(3) 研究基盤整備推進事業 6
(4) 学研都市人材育成事業 7

2 技術開発支援による新事業の創出・技術の高度化

(1) 北九州市新成長戦略の推進 9
(2) 産学連携推進事業 11
(3) 国等研究開発プロジェクト受託事業 13
(4) 地域イノベーション戦略支援プログラム事業 14
(5) 北九州技術移転機関（北九州TLO）運営事業 15
(6) 半導体技術推進事業 15
(7) カーエレクトロニクス拠点推進事業 17
(8) ロボット開発支援推進事業 19

3 地域企業への経営支援と創業の促進

(1) 中小企業経営支援事業 22
(2) 北九州知的所有権センター運営事業 23
(3) ベンチャー育成補助事業 24

4 学研都市のPRと効率的な施設運営

(1) 学研都市の認知度の向上 25
(2) 効率的な財団運営 26
(3) 学術研究施設等管理運営事業 26

【収益事業等会計】

(1) 学研都市施設活用事業 29

【法人会計】

(1) 財団の管理運営等 29

■ 事業の概要

公益財団法人 北九州産業学術推進機構（以下、「当財団」という。）は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市（以下、「学研都市」という。）を中心に、北九州地域における産学官連携による研究開発及び学術研究を推進する等により、産業技術の高度化及び活力ある地域企業群の創出・育成に寄与することを目的に、大学・研究機関と産業界の連携の推進や、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援を行っている。

現在、学研都市では、国・公・私立の大学1学部4大学院、企業44社及び研究機関12機関等が集積し、学生2,330名（うち留学生530名）、教員159名、その他企業関係者などを合わせて3,197名（平成27年5月1日現在）が、教育や研究開発等に取り組んでいる。

当財団では、平成26年度、学研都市の効果的効率的運営、技術開発・経営支援、さらには、国内外への積極的情報発信等を進めた。この結果、関係機関の有機的連携による高度人材育成、新事業の創出や技術の高度化、多数の創業、多数の海外視察者などの成果につながった。

アジアに開かれた学術研究拠点の形成

【大学連携】

学研都市の国公私3大学（九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学）による、国内でも評価が高い「連携大学院」を進め、平成26年度は、「カーエレクトロニクスコース」や「インテリジェントカー・ロボティクスコース」の学生を対象に、研究インターンシップやオフサイトミーティング（企業と学生の意見交換会。企業15社・学生延315名が参加）など独自の支援プログラムを実施した。この結果、こうした高度専門人材育成プログラムにより、カーエレクトロニクスコース25名、カーロボコース40名の修了生を輩出した。なお、修了生の多くは、その経験によって、自動車メーカーや電装メーカー等に就職した。

【人材育成】

「ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業」は、平成25年度に引き続き実施し、学生主体のものづくりプロジェクトである「ひびきのハイテクチャレンジ」の助成（公募）を行うとともに、大学や企業等と連携した実践的講習会の開催やものづくり活動のフィールドの提供を行った。この結果、ハイテクチャレンジでは、自然エネルギー利用冷暖房やRoboCup関連など学生グループによる7件の活動推進や、3Dプリンタ活用ノウハウの習得などにつながった。

優れた半導体技術者を育成するため、「ひびきの半導体アカデミー」を開催した。この結果、「高精度熱抵抗/熱容量測定・最先端熱伝導率測定法セミナー」など14講座に337名が参加し、半導体技術者育成につながった。

【アジアの研究拠点化】

学研都市では、毎年、数多くの海外研究者等を受け入れており、産学官連携による産業・学術の推進について説明を行うとともに、海外人材と学研都市との連携強化や国内外への積極的情報発信を進めている。この結果、平成26年度は、36カ国・地域の1,174人に対し学研都市等の活動や成果の説明を行い、海外研究者等の関心を高めるとともに国際的ネットワークの構築にもつながった。

産業のグローバル化の進展の中で、高度人材として活躍が期待される優秀な留学生と地域企業とのネットワーク構築を支援するため、「北九州学術研究都市冠留学生奨学金制度」を創設している。平成26年度は、市内の中小企業1社、ベンチャー企業1社の冠奨学金が具体化し、ネットワーク構築に貢献した。

技術開発支援による新事業の創出・技術の高度化

【新事業創出・技術高度化】

北九州市新成長戦略に掲げる「新たな技術と豊かな生活を創り出すアジアの先端産業都市」の実現に向け、市内企業・大学等の持つ技術の高度化、製品の高付加価値化、新事業の創出を目指す研究開発への支援（助成）を行った。この結果、燃料電池用触媒開発や高齢化社会対応技術適用可能性評価等33件の研究開発事業が進められた。

【産学連携】

学研都市を中心とした産学連携を推進するため、連携プラットフォームの形成、情報発信、支援（助成）等を推進した。この結果、「第14回産学連携フェア」等の「産」と「学」との出会いの場に約1万人が参加し、また、「北九州医歯工連携研究会」など研究会活動が進められた。

【国等スキーム活用】

研究開発を一層推進するため、国等のプロジェクト・スキームの活用を進めた。この結果、新規事業3件を含む11件の事業を26の企業と共同で進め、新技術・新製品の開発を行った。

【地域連携】

低炭素社会、高度情報化社会、健康・長寿社会等の次世代社会に必要な技術・製品の創出に向け、福岡県や北九州市等と連携し、アジアをリードするイノベーション拠点「福岡次世代社会システム創出推進拠点」の形成に取り組んだ。この結果、11の研究プログラムが実施された。

【特許・技術移転】

北九州 TLO として、大学等で生み出された研究成果を特許化し、ライセンス契約等により企業への技術移転を進めた。この結果、特許出願数や技術移転成約件数は前年度から大きく増加し、累積特許出願件数は433件、累積技術移転成約件数は218件に達した。

【半導体技術】

企業・公的機関等63団体からなる「ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」では、新アプリケーション産業の創出等を目的に、販路創出等に取り組んだ。この結果、協議会が開発を支援したLED投光器が、「北九州市トライアル発注認定新商品」及び「北九州エコプレミアム」に選定されるとともに、北九州市の施設に採用された。

【カーエレクトロニクス】

学研都市を中心とした大学における研究シーズ（種）を具体的な産学共同研究へつなげる取組を実施した。この結果、早稲田大学を代表研究機関とする「ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発」が内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）／次世代パワーエレクトロニクス」に採択され事業化に向け大きく前進した。また、「九州・ひびきの自律走行研究会」などの研究会運営を進め、最適ソリューションの絞り込みを進めた。

【ロボット】

「産業用ロボット導入支援センター」では、ロボット技術を活用した地域企業のものづくり力強化と生産性向上を支援した。また、北九州ロボットフォーラムの運営やロボティクス分野の新規研究プロジェクトの立ち上げや助成を行った。この結果、研究開発で得られた新技術・新製品の実証化・事業化のコーディネート（9件）の進展等につながった。

地域企業への経営支援と創業の促進

【中小企業経営支援】

創業や経営革新に積極的に取り組む中小企業に対して、総合相談や専門家派遣による経営支援を行った。この結果、新規開業35社、課題解決513件、マッチング成立14件、雇用創出約120人など、中小企業の振興につながった。

【知的所有権】

特許等の知的所有権に関する中小企業等への支援を進めた。この結果、1,000回を超える中小企業への相談等への助言につながった。

【ベンチャー育成】

ベンチャー企業支援ネットワーク「北九州ベンチャーイノベーションクラブ(KVIC)」による各種事業展開や、市内インキュベーション施設入居企業への支援を進めた。この結果、インキュベーション入居企業の売上高85%増などの振興につながった。

学研都市のPRと効率的な施設運営

【学研都市PR】

学研都市について、工業系全国紙とタイアップした企画連載や大学研究でのアピールなど、様々な機会や手法を活用して、国内外への情報発信を行った。この結果、36ヶ国・地域からの研究者等の視察や、約200件の報道などにつながった。

【効率的財団運営】

「FAIS 職員提案制度」等により、様々な改善見直しを行った。この結果、学研都市施設全般電力使用量の対平成22年度比16.0%削減などの効率化につながった。

【学術研修施設等管理運営】

北九州学術研究都市や北九州テレワークセンターの指定管理者として、施設の効果的・効率的な管理運営を行うとともに、施設の利便向上に取り組んだ。

今後とも、学研都市など、北九州地域における産学官連携による研究開発及び学術研究を推進する等により、産業技術の高度化及び活力ある地域企業群の創出・育成に寄与すべく、取組みを推進していく。

■ 具体的な取り組み

【公益目的事業会計】

1 アジアに開かれた学術研究拠点の形成

(1) 大学間連携促進事業

○ キャンパス運営委員会の開催

学研都市の大学の代表者等によって構成されるキャンパス運営委員会を開催（2回：9月24日、2月19日）し、産学連携、大学間連携及び学術情報等に関する協議を行った。

○ 学研都市見学会

近隣の高等学校・高等専門学校生徒を学研都市に招き、大学研究室等での教育研究活動の体験・施設見学など最新の研究成果などに触れてもらう見学会を、学研都市の3大学（北九大、九工大、早稲田大）と連携し開催した。

参加者	開催日	参加者数
国立北九州工業高等専門学校 電気電子工学科2年生	6月3日	44名
福岡県立東筑高等学校 1年生	9月26日	361名

(2) 留学生支援事業

○ 留学生就職支援プログラム事業

学研都市の3大学（北九大、九工大、早稲田大）で日本企業に就職を希望する修士留学生を対象に、ビジネス日本語講座、日本ビジネス講座、就職セミナー等の就職支援プログラムを実施した。

*受講生 20名（九工大4名、早稲田大16名）

*日本ビジネス講座、就活セミナーはプログラム受講生以外の留学生も参加

*参 考 平成25年度プログラム受講生17名の就職先

日本電気(株)、(株)野村総合研究所、オムロン(株)、パナソニック(株)、楽天(株)、ルネサスエレクトロニクス(株)、NTN(株)、住友重機工業(株)、日立国際電気(株)、安川コントロール(株)等

○ 語学教育センター運営事業

学研都市の留学生、進出企業・研究機関の研究者等を対象として、日本語講座、習熟度別少人数指導方式日本語、漢字講座、英会話講座を実施した。

講座名	開講期間	授業回数	受講生数
日本語 (初級～中級、ビジネス日本語7コース)	4月～8月	32回	78名
	10月～2月	26回	164名
習熟度別少人数指導方式日本語	4月～8月	17回	11名
漢字	4月～8月	16回	12名
	10月～2月	15回	22名
英会話(初級・中級2コース)	4月～8月	16回	14名
	10月～2月	15回	19名
合 計		137回	320名

○ 奨学金の給付

優秀な留学生の集積を図るため、奨学金（年間60万円／人、秋期入学は30万円）を給付した。

*奨学金：14,100千円（給付人数：41名）

○ 住宅費助成金交付事業

教育研究活動に専念するための生活支援として、各大学が提供する宿舍等に入居することができず、民間の賃貸住宅等に入居する留学生を対象として、家賃等の助成を行った。

*助成額：3,495千円（助成人数：78名）

○ 留学生交流事業補助

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人やボランティア団体が実施する留学生支援活動に対し助成を行った。

*助成額：600千円

○ 学研都市留学生ビジネスネットワーク支援事業

留学生と地域企業との結びつきを支援するため、留学生と企業との交流の場（企業見学会、意見交換会等）を提供するとともに、卒業生を含めた留学生のネットワークを構築した。

また、企業がスポンサーとなる冠付奨学金について、(株)戸畑ターレット工作所、日本プライスマネジメント(株)から寄付を受け、留学生2名に給付した。

【企業見学会】

- ・平成26年11月9日 (株)ウチダ 参加留学生数：23名
- ・平成27年 2月3日 (株)C&Gシステムズ 参加留学生数：23名
- (株)デンソー九州 参加留学生数：27名

【地域企業との交流】

- ・平成26年11月9日 直鞍国際経営交流会
参加企業数：12社、参加留学生数：23名

*学研都市留学生同窓会「ひびきの会」：平成26年9月設立

*冠付奨学金（2企業）：60万円/年（給付人数：1名）、36万円/年（給付人数：1名）

(3) 研究基盤整備推進事業

○ 海外大学等との連携プロジェクト促進事業

① 海外連携プロジェクト助成金

学研都市内に研究拠点を設けた海外大学に対し、共同研究を行う大学に対して助成するとともに、拠点の設置・維持に係る経費の一部助成を行った。

【共同研究】

- ・ 清華大学（中国）と早稲田大学とのマルチコアプロセッサとマルチメディア処理に関する共同研究
- ・ 上海交通大学（中国）と早稲田大学との環境情報処理技術に関する共同研究
- ・ 北京大学（中国）と早稲田大学との3次元コンピュータビジョン技術高度化に関する共同研究

【拠点の設置】

- ・ フィレンツェ大学国際プラントニューロバイオロジー研究所 北九州研究室など2件

② 海外サイエンスパーク等との交流調査事業

10月の中華民国（台湾）103年国慶節祝賀レセプションへの出席、10月の「産学連携フェア」に台湾の3科学工業園区（新竹・南部・中部）との交流窓口である台北駐日経済文化代表処を招いて「学研都市視察」の実施など、海外サイエンスパークとの交流を図った。

(4) 学研都市人材育成事業

○ カーエレクトロニクス拠点推進事業(人材育成関連)

学研都市3大学による連携大学院「カーエレクトロニクスコース」(平成21年4月に開設)、「インテリジェントカー・ロボティクスコース」(平成25年4月に開設)の運営を支援し、学研都市3大学及び関係企業と連携しながら実践的な高度人材の育成を行った(平成26年度コース修了生:カーエレコース25名、カーロボコース40名)。

また、研究インターンシップ(実践的派遣教育)やオフサイトミーティング(企業と学生の意見交換会)など独自の支援プログラムを実施した。

① 研究インターンシップ

より実践力を備えた産業人材を育成するため、学生を企業の研究開発部門などへ派遣するインターンシップのコーディネートや、派遣に伴う旅費等についての助成金制度(実践的派遣教育事業助成金)により、インターンシップの実施を促進した。

*助成金採択者数:3名

② オフサイトミーティング

カーエレクトロニクス関連企業のエンジニア・人事担当者を招聘し、気軽な雰囲気ディスカッションを行うことにより、職業観の醸成を目的としてオフサイトミーティングを実施した。

*参加企業数:15社、参加学生数:延べ315名

○ 【新規】環境にやさしい次世代自動車勉強会(FCV編)

次世代自動車産業拠点の形成に向け、地域企業の自社技術の活用や新たなビジネスチャンスの検討に向けた機会の提供としてセミナー・講座を開催した。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
「水素エンジン車の開発と水素供給施設の整備」セミナー ①もう一つの水素自動車 ②水素インフラ整備の取り組みについて	11月19日	80名
「明るい未来の自動車社会を語る」シンポジウム ①基調講演:明るい未来の自動車社会 ②パネルディスカッション	2月16日	102名

○ ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業

① 平成25年度に引き続き「ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業」の運営を行い、学生主体のものづくりプロジェクト「ひびきのハイテクチャレンジ」を公募、助成した。

【採択プロジェクト】

プロジェクト名	参加者数
学生フォーミュラ車両製作を通じた高度な人材育成	11名
自然エネルギーを利用して冷暖房を行う茶室への挑戦	35名
PICを使ったイルミネーション製作による人材育成	23名

窓清掃ロボットの移動機構開発	12名
屋内軽作業向け球体駆動式全方向移動台車の開発	14名
RoboCup@Home に向けた自律ロボットの開発と競技大会への参加	6名
RoboCup 中型リーグに向けた次世代プラットフォームの開発	10名
合 計	111名

② 学生が主体的に取り組む開発プロジェクトを支援するため、大学や企業等と連携し、実践的な内容を中心とした講習会の実施やものづくり活動のフィールド提供などを行った。

【人材育成や研究開発に関する講習会・セミナー・情報発信の企画開催等】

内容	開催日	参加者数
プロジェクトマネジメント講習会	7月9日	7名
安全講習会&北九州マイスター講習会(KIGS)	8月18日	27名
3Dプリンタ活用講習会	9月3日、4日	16名
合 計		50名

○ 半導体人材育成事業

優れた半導体技術者を育成する取り組みとして、半導体技術者が必要とする関連技術の習得を目的とした講座「ひびきの半導体アカデミー」を14講座実施した。

市のサービス産業政策課が進める小倉市街地の都市再生企画、リノベーションスクールの一環として開催した「リノベ祭」において、小学生と家族向けのLED工作教室を実施し、LED照明の省エネ効果をアピールすると共に、LEDを使った簡単な電子工作を行った。

講 座 名	開催日	受講者数
メンター・グラフィックス・ジャパン(株)による高精度な熱抵抗/熱容量測定法と最先端熱伝導率測定法セミナー	6月20日	16名
最先端の光ソリューションで研究開発とビジネスの可能性を探る(ひびきのサロン)	6月26日	39名
(株)IDAJによる熱設計基礎講座	7月29日	27名
LED工作教室(リノベ祭)	8月23日	27名
(株)IDAJによる電子機器専用熱流体解析体験セミナー	10月20日	4名
LED工作教室(ひびきの祭)	11月9日	95名
LED素子	11月13日	16名
福岡システムLSIカレッジ学研開催 ①鉛フリーはんだ接合部の信頼性評価手法 ②高速化に対応するプリント基板の設計とノイズの基礎 ③SIとEMCの設計のポイント	11月18日 11月20日 11月21日	17名 11名 10名
文科省ナノテクノロジー微細加工プラットフォーム事業・半導体の故障解析	12月18日	14名
総務省・新たな広域連携モデル構築事業 ①LED駆動技術実習講座 ②PICマイコン活用基礎講座	1月22日 1月26日	20名 36名
マネジメント能力向上講座	2月10日	5名
合 計		337名

2 技術開発支援による新事業の創出・技術の高度化

(1) 北九州市新成長戦略の推進

○【新規】新成長戦略推進のための研究開発プロジェクト助成事業

北九州市新成長戦略を推進するため、技術の高度化、製品の高付加価値化及び新産業の創出を目指す研究開発を支援した。

① 新成長戦略推進研究開発事業(助成金)

・ 研究開発プロジェクト創出・育成事業

北九州市新成長戦略に定める成長分野に関する事業化を目指した研究開発プロジェクトを創出・育成していくための調査・研究に対して助成。

＊100万円以内/年（単年度助成）

・ 成長産業実用化研究開発推進事業

北九州市新成長戦略に定める成長分野に関する技術の高度化・製品の実用化を目指す研究開発に対して助成。

＊700万円以内/年（最長2年度）

【研究開発プロジェクト創出・育成事業】12件

採択テーマ名	申請企業・大学
松葉杖歩行時の脇当ての脱落および握り部圧の集中を軽減させる新型松葉杖の開発	(株)有菌製作所
回復期リハビリ用バランス検査訓練システムの開発	九州栄養福祉大学
高速・高精度な運動競技場の自動ライン引きロボットの低コスト化	(株)アダチスポーツ
光触媒特性を有する酸化物ナノシート材料の合成と評価	北九州市立大学
炭素繊維強化熱可塑樹脂を用いた超軽量航空宇宙機構体設計・製作技術確立	九州工業大学
微小血管における循環能活性化に基づく抗メタボリック症候群薬の開発	九州工業大学
表面音響光学効果を用いたポイントオブケア向け高感度バイオセンサの開発	九州工業大学
電子機器冷却用小型熱輸送デバイスに用いる高性能沸騰伝熱面の開発	九州工業大学
燃料電池用高性能低コスト非白金酸化物触媒の開発	九州工業大学
口腔内ケアサプリメントの開発を志向した歯周病抑制菌の分離と機能追究	九州工業大学
炭素繊維素材の弾性特性を用いた非電動立ち上がり介助機能付き歩行器の開発	九州工業大学
臨床で利用可能なウェアラブルな起立動作計測システムの開発	九州工業大学

【研究開発プロジェクト創出・育成事業（半導体・エレクトロニクス技術）】 4件

採択テーマ名	申請企業・大学
音響センシングによる安全運転支援技術の研究開発	九州工業大学
災害復旧・消防活動用超高出力LED照明の実現に向けた高性能放熱モジュールの開発	北九州市立大学
LED コルゲート灯の開発	(株)豊光社
広域火災消火活動を支援するための散布型センサーモジュールの開発	(株)設計アルゴリズム研究所

【成長産業実用化研究開発推進事業】 9件

採択テーマ名	申請企業
顧客サービスに着目した電力・熱・業務プロセスの最適化に関する実証	環境テクノス(株)
低コスト・高強度な粉末積層式三次元造形用新素材および造形技術の開発	(同)ひびくー
歯周病炎症性メディエータ検出イムノクロマトの開発及び歯周病総合診断法の検討	(株)ジーンネット
生体情報及びモーションセンシングによる現場に即した動的な監視機能を追加し、安全性と操作性を高めた利用継続性のある歩行訓練ツールの開発	リーフ(株)
研磨パッドと水酸化フラーレン混合スラリーによる新規研磨法の実用化研究	三島光産(株)
相反転方式水車による小水力発電と電力利用システムの技術研究開発【継続】	(株)協和コンサルタンツ
中小企業向け産業用ロボット高度化のための次世代教示システムの開発	(有)A I D
産業タイヤの製造工程廃棄物であるスチール・ゴム接着物の分離後ゴム回収・再利用法の開発	(株)イマナガ
プロジェクター用高輝度LED光源の開発	(株)STE Q

○ 地域企業の成長産業分野への新規参入支援事業

北九州市内ものづくり企業の成長分野への新規参入を促進するため、金属加工、プラスチック加工、機械器具等、地域企業が保有する技術と市場マーケットとの接点を調査した。また、市内のものづくり企業が新たな分野への参入や新たな顧客開拓のために用いるサンプルの製作や展示会出展を支援した。

・ 成長分野新規参入支援事業（助成金）

新たな分野への参入や新たな顧客開拓などに用いる「サンプル（試作品）製作費用」、「サンプル（試作品）を用いた商談や展示会出展に必要な経費」を助成

採択テーマ名	申請機関
オフィス照明の節電制御装置 - ライティングオーケストラ	博通テクノロジー(株)
アタッチメント式台車用パワーアシストユニット	(有)ICS SAKABE
生化機能性材料による新規化粧品および食品	(株)FIL TOM
セラミックスの加工成型技術を活かした新商品セラミックスライナー：ハリストー	(株)アステック入江

○ **【新規】高齢化社会に対応した地域企業競争力強化支援事業**

高い産業競争力を持つ「知力と活力にあふれた多世代共創型産業社会＝スマートダイバーシティ社会」の実現へ向け、ロボット技術やセンシング技術を活用した高齢者や女性にも働きやすい職場環境の構築に必要な人間工学、ロボット技術及びセンシング技術に関する研究を市内大学等と共同で実施した。

研究テーマ
労働支援ツール評価のための動作解析研究とツール適合性評価研究
高齢者・女性等における就労動作の解析及び労働支援ツールの適合可能性評価
人とロボットとの共創社会を実現するためのロボット技術適用可能性評価
センサーに関する調査研究及び高齢者の安否確認並びに働く人の作業環境監視のためのCO ₂ 、NO ₂ センサーの可能性調査

(2) **産学連携推進事業**

○ **産学連携基盤形成事業(研究者情報冊子の作成等)**

学研都市の研究者情報等の技術シーズや研究成果を積極的に発信するとともに、最新の技術動向の収集や国その他関係機関とのネットワーク強化を通じて、産学連携の基盤づくりを進めた。

① 「北九州学術研究都市の研究者情報」冊子等の作成

学研都市のポテンシャルを広くPRするため、様々な媒体により、研究者の情報(5機関、約190名)のPRを行った。

- ・ 「研究者情報」の改訂

冊子1,500部、 概要版(日本語)3,000部、(英語)1,000部

- ・ 研究者インタビュー記事の更新

学研都市の注目の研究者のインタビュー記事を、学研都市ホームページ及び研究者情報データベースのサイトに掲載(年2回)

② 産学連携を効果的に推進するための情報収集・発信

情報発信機能のPRとネットワーク拡大を目的に、メールマガジン「産学連携センターNews」を約7,700人に58回配信し、国等の公募事業や産学連携イベント情報、北九州TLOの保有シーズなどタイムリーな情報提供を行った。

○ **産学交流促進事業(産学交流サロン、第14回産学連携フェア等)**

① 産学交流サロン

学研都市において産学連携の動きが次々と生まれる環境づくりを目的に、特定の技術テーマについて、産学官で自由にディスカッションする「産学交流サロン」(8回開催、延べ約1,000名参加)を開催した。

回	テーマ・講座名	開催日	参加者数
第129回	最先端の光ソリューションで研究開発とビジネスの可能性を探る ～ バイオ研究・環境計測分野等へのレーザー用光学機器・光学システムの応用 ～	6月26日	36名

第130回	～北九州医歯工連携研究会～ 潜在ニーズをつかみ取れ！ ユーザーと共に新しいプロダクトを生み出す「デザイン思考」セミナー	9月11日	87名
第131回	「産業界が求める人材と連携大学院への期待」 ～産業界、先輩から送る連携大学院生への熱いメッセージ～	10月10日	76名
第132回	<新技術説明会> 第1部「環境・エネルギー」 第2部「医療・福祉・健康」	10月31日	365名
第133回	「グローバル情報生産システム研究の最前線！」 ～アジアの頭脳が早稲田大学IPSひびきのキャンパスに 集う～	11月12日 13日	176名
第134回	LEDスマートアプリケーションの世界	2月6日	106名
第135回	ロボット革命実現に向けて ～国の施策とロボット技術の最新動向～	3月6日	104名
第136回	～北九州医歯工連携研究会～ 「デザイン思考」セミナー Part2 介護現場からの実践報告	3月12日	57名

② 産学連携フェア

地域の大学（研究機関）・企業等の研究シーズや先端科学技術の研究開発状況を広く情報発信するとともに、「産」と「学」の出会いの場を提供する「第14回産学連携フェア」を2日間開催し、延べ約7,700名が参加した。

フェアでは、基調講演（世界のロボット事情と日本の進むべき道）、セミナーや展示会を開催し、企業商談等182件（技術相談60件、商談56件、共同研究66件）の成果を上げた。

- *日程 : 10月30日～31日
- 場所 : 北九州学術研究都市
- テーマ : 知と技術の融合
- 基調講演 : 株式会社安川電機 代表取締役会長兼社長 津田 純嗣 氏
- セミナー : 33件開催
- 展示会 : 46機関・団体が出展

③ 展示会等出展

学研都市における産学連携活動を広くPRするため、北九州イノベーションギャラリー夏企画展に同時開催連動展としてPRブースの出展を行った。

展示会等	開催日
「北九州の先端技術」展（北九州イノベーションギャラリー）	7月12日～9月15日

○ 中小企業産学官連携研究開発事業(中小企業向け助成金)

市内中小企業の技術や製品の高度化を推進するため、市内中小企業が大学等と行う優れた新技術・新製品の研究開発を支援した。

- ・市内の中小企業が行う、補助終了後3年程度以内の実用化の見込みのある新技術や新製品開発に対する助成

*700万円以内/年（最長2年度）

採択テーマ名	申請企業 (他の参画企業)	参画大学等
情報提供サービス充実の為の携帯写真で簡単な魚種検索機能の開発	(株)ケイエス企画	九州工業大学
日本と東アジアの各麹菌を共培養した新規麹を用いた甘酒の開発	小倉印(株)	北九州市立大学
万能ロボットハンドを用いるマニピュレータシステムの開発	前田機工(株)	九州工業大学
3Dプリンタを用いた革新的砂型造型工程における難燃性マグネシウム合金砂型鑄造製品の開発	(株)戸畑製作所	九州大学、 福岡県工業技術センター 機械電子研究所
屋外携帯用超軽量呼吸補助装置と最適呼吸マスクの開発	カースル(株)	西日本工業大学
尿中トロンビン活性測定による急速進行性糸球体腎炎の診断装置の開発	九州ワダチ(株)	九州工業大学
加工モニター機能を有するインテリジェント微細タップ加工装置の開発【継続】	(株)タック技研工業	北九州市立大学
3次元自動FW成形装置を用いた繊維強化プラスチック製品の開発【継続】	丸栄化工(株)	北九州工業高等専門学校、 九州工業大学

○ 新産業創出支援事業

イノベーション手法の一つであるデザイン思考を用いて、介護現場及び在宅医療現場における潜在ニーズの発見、課題形成を行い、新たなアプリケーションを創出するため、研究会活動を通じて介護・在宅医療等企業における潜在ニーズの抽出や介護技術等スキルの分析等を実施した。

また、北九州都市圏域の3次元技術活用実態を調査し、市内企業とあわせて分析することにより、市内との比較や他地域との差異を把握するとともに、当該技術の活用による企業の競争力強化や課題を検討した。

その他、個別分野の研究開発プロジェクトを検討する研究会を運営するとともに、国プロ終了案件の事業化へ向けた補完研究を支援した。

研究会名	参画機関
作業動作アシストツール職場導入支援研究会	大学等3機関、企業15社
3Dものづくり技術研究会	大学等1機関、企業7社
泥炭火災抑制技術研究会	大学等3機関、企業3社、公的機関6機関
北九州医歯工連携研究会	大学等6機関（企業は自由参加制）

(3) 国等研究開発プロジェクト受託事業

国等からの研究開発資金を活用した産学共同研究プロジェクトを運営実施した。

平成26年度は、前年度からの継続の8事業を含め、11事業に取り組み、(このうち7事業については、平成27年度以降も継続実施)、市内外の26企業と共同プロジェクトを進め、新技術・新製品の開発を行った。

プロジェクト名	事業期間	参画大学	公的研究機関	参画企業数
地滑り・公共インフラ老朽化監視用低コスト・多機能・高精度計測システムの研究開発	24年度～26年度	早稲田大学	—	4
エネルギー社会に対応した高機能パワーデバイスの高信頼性を確保する超小型電流センサ及び製造ライン向け検査装置の開発	24年度～26年度	九州工業大学	1	3
非常用電源としてのマグネシウム空気電池を実現する難燃性マグネシウム合金鋳造薄板による革新的電極素材の開発	25年度～27年度	—	1	3
溶融亜鉛めっきの代替が可能な複合酸化物を活用した高強度防錆塗料と工法の開発	25年度～27年度	九州工業大学、九州大学	—	2
広域対象のPVシステム汎用リサイクル処理手法に関する研究開発	22年度～26年度	—	—	2
新バイオディーゼルの合成法の開発	22年度～26年度	北九州市立大学、日本工業大学 他	—	—
インドネシア・バリクパパン市における泥炭・森林火災の消火技術モデル事業	25年度～27年度	北九州市立大学	—	4
微細加工プラットフォーム事業	24年度～33年度	—	—	—
SiCセラミックス大幅適用拡大の為に新規2段反応焼結法(接合・精密加工技術)の開発	26年度～28年度	九州工業大学	—	1
HV向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発	26年度～29年度	早稲田大学、九州工業大学	—	4
竹-プラスチックコンポジット材を活用した事業の推進	26年度～28年度	—	—	3
合 計			2	26

(4) 地域イノベーション戦略支援プログラム

福岡県、北九州市、福岡市、(公財)福岡県産業・科学技術振興財団と連携し、これまでの文部科学省クラスター施策での研究成果等の展開を図るとともに、低炭素社会、高度情報化社会、健康・長寿社会等の次世代社会に必要な研究開発を推進し、アジアをリードするイノベーション拠点「福岡次世代社会システム創出推進拠点」の形成に取り組んだ。

【研究テーマ】

研究テーマ名	研究代表者
有事対応型情報プラットフォームの開発	九州大学 安浦寛人 教授
複合型社会情報基盤システムの信頼性・安全性保証技術の研究開発	九州大学 福田晃 教授
高性能無線バックホール	九州大学 古川浩 教授
次世代窒化ガリウムパワー半導体による革新的ワイヤレス・エネルギー供給技術開発と照明への応用	九州工業大学 大村一郎 教授
MEMS を利用した細胞解析デバイスの開発	九州工業大学 安田隆 教授
超低電力アナログLSIの高信頼設計技術に関する研究	北九州市立大学 中武繁寿 教授

新規高輝度LED利用による省エネルギー・超高集約型植物栽培システムの開発	北九州市立大学 河野智謙 教授
高機能・高信頼性モジュールのための高付加価値インターポーザに関する研究	福岡大学 友景肇 教授
3次元LSIによる画像処理チップの研究	早稲田大学 後藤敏 教授
次世代画像符号化（HEVC）の低消費電力化の研究	早稲田大学 後藤敏 教授
CPS構築に向けたSSSoC利活用技術の開発	(公財)九州先端科学技術研究所 村上和彰 副所長

(5) 北九州技術移転機関(北九州TLO)運営事業

大学等で生み出された研究成果を特許化し、ライセンス契約等により企業へ技術移転を図った。

平成26年度実績（25年度実績）		平成26年度末現在	
特許出願件数	3件（1件）	累積特許出願件数	433件
技術移転成約件数	11件（6件）	累積技術移転成約件数	218件

* 知的クラスター創成事業の成果でFAISが特許出願した件数を含む。

(6) 半導体技術推進事業

○ 半導体産業創出事業

ベンチャー企業のニーズなどを踏まえ、アナログ回路設計ツールや評価機器の整備を行い、充実した半導体設計環境・評価環境づくりを進めた。

【半導体設計環境及び、評価・解析環境の提供】

種別	ツール名・機器名
レイアウト検証	Calibre
回路シュミレーター	Virtuoso Spectre Circuit Simulation
回路図エディター	Virtuoso Schematic Composer
レイアウトエディター	Virtuoso Layout Editor
フルフロー設計	HiPer Silicon
その他	環境整備（端末設定・機器・部品等）

* 延べ利用者数1,089人

○ 新アプリケーション創出事業

平成23年2月に発足した「ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」は、LEDを用いた新アプリケーション産業の創出等を目的に活動を行っている。また、協議会活動の一環として、平成25年度より販路創出分科会を立ち上げ、販路創出にも取り組んでいる。

協議会が開発を支援した(株)春日工作所（KSL-100Ma）、イーアイエス(株)（EI-FL500M）のLED投光器が、北九州市トライアル発注認定新商品に選定されるとともに、北九州エコプロレミアム・エコプロダクツに選定された。そのうち、(株)春日工作所のKSL-100Maは、北九州市版トライアル発注制度を利用して、小倉城ライトアップ用投光器、中井市民センター駐車場用投光器に採用された。

また、第5回ひびきのLEDアプリケーション創出協議会、第134回産学交流サロン（ひびきのサロン）を2月6日に同日開催（参加者数：106名）するとともに、東京ビッグサイトで開催された『ライティング・フェア2015』などの展示会等に出展し、協議会の活動状況や成果等を市内外に幅広く情報発信した。

【研究会活動】

研究会名	参画機関
ひびきのLEDアプリケーション創出協議会	会員数129名、企業41社、公的機関等22団体
高輝度LED照明研究会	大学4機関、企業8社、公的機関1機関

【ひびきのLEDアプリケーション創出協議会 登録研究グループ】

研究グループ名	参画機関
高効率LEDデジタル電源制御技術の研究	早稲田大学、(株)イーシーエス、新日本無線(株)
無線ネットワークを用いた室内照明節電制御システムの研究	早稲田大学、博通テクノロジー(株)、東芝ライテック(株)
LED安全・防災応用研究会	北九州市立大学、国立環境研究所、北九州市消防局、(株)エコジェノミクス、(株) i T e s t、(株)インフォグラム、(株)キットヒット
LED植物工場（食料生産）研究会	北九州市立大学、(株) i T e s t、宮崎大学、弘前大学、九州沖縄農業研究センター、ボン大学（独）、フィレンツェ大学（伊）、パリ第7大学（仏）、新日鉄ソリューションズ(株)
LED鮮度保持照明研究会	北九州市立大学、クランフィールド大学、東北大学、(株) i T e s t
LED駆動回路の研究	北九州工業高等専門学校
LEDスペクトル照射による化学物質の分解システム	熊本県立大学、(有)ニシカン、(有)球磨衛生設備管理会社、(有)松岡清掃公社、(有)三角環境、(株)セイブクリーン
高輝度LEDを駆使した魚類の電気生理学的応答の解明と工学的応用	北九州市立大学
LEDアプリ製品のための低コスト高放熱パッケージの研究	(株)STEQ
インテリジェントLED照明の研究	(株)STEQ
LEDによるCO2吸収システム	北九州市立大学、フィレンツェ大学（伊）、(株)パートナー
電源一体型小型・軽量LED水中灯研究会	福電資材(株)、鹿児島大学大学院

船舶法定船灯LED化への調査研究	(株)マリンテック、 (地独)山口県産業技術センター、 KEN工房、(株)豊光社、 福岡県工業技術センター、 (公財)福岡県産業・科学技術振興財団、 (株)エコス
高輝度消防用LED照明開発	北九州市立大学、(株)豊光社、鹿児島大学、 (株)アイ・エス・ディ
農業システム実証研究会	北九州市立大学、(株)九州スーパーハウス、 (株)イーシーエス
LED紫外線照射によるマゴット抗菌物質発現研究	(株)イーズ、九州工業大学、新日本無線(株)、 佐島電機(株)
道路等高輝度特殊照明研究会	イーアイエス(株)、九州工業大学、 北九州市立大学、(株)春日工作所
大出力LED照明研究会	(株)マクニカクラピスカンパニー
分子接合技術によるLED照明高放熱基盤の開発	(株)豊光社、(株)いおう化学研究所、 北九州市立大学、 (一財)ファジィシステム研究所
低価格で高機能・高付加価値型生物環境用LED光源の開発・商品化	(株)環境フォトニクス

【展示会出展等】

展示会等	開催日
S I I Q総会交流会 (ANA クラウンプラザ福岡)	6月26日
産学連携フェア (北九州学術研究都市)	10月30日～31日
ライティング・フェア2015 (東京ビッグサイト)	3月3日～6日
ジャパンインターナショナルポートショー2015 (パシフィコ横浜)	3月5日～8日

(7) カーエレクトロニクス拠点推進事業

○ 研究開発支援事業

① 研究開発支援

学研都市を中心とした大学における研究シーズを具体的な産学共同研究へとつなげる取組みを実施した。自動車関連企業からのニーズが強く、実効性の高い研究テーマについて共同研究を支援した。

【S I P (戦略的イノベーション創造プログラム/次世代パワーエレクトロニクス)】

採択テーマ名	代表研究機関
ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発	早稲田大学

② 研究会活動

自動車メーカー、地域企業、研究者等による6つの研究会活動を実施した。各研究会では、最適なソリューションを絞り込むために、課題解決のための議論や、特許調査・市場分析を行った。

研究会名	参画機関
九州・ひびきの自律走行研究会	早稲田大学、九州大学、(株)デンソー、アイシン精機(株) 等
高温実装・材料技術検討会	早稲田大学、九州工業大学、トヨタ自動車(株)、(株)デンソー、(株)三井ハイテック 等
エネルギーハーベスティング研究会	九州工業大学、新日本無線(株)、吉川工業(株) 等

③ ニーズ・シーズマッチング

学研都市を中心とする地域の大学研究者と、大手自動車産業技術者とのニーズ・シーズのマッチングを図り、産学連携や共同研究に向けたきっかけづくりに取り組んだ。

実施日	企業側	大学研究者
6月16日	トヨタ自動車(株)2名	九工大1名
6月17日	トヨタ自動車(株)2名	早稲田1名
6月17日	トヨタ自動車(株)2名	北九大1名
10月28日	アイシン精機(株)2名	早稲田1名
10月28日	アイシン精機(株)2名	九工大1名
10月28日	アイシン精機(株)2名	北九大1名
11月28日	TTDC1名	産業医大1名

④ セミナーの開催（再掲）

テーマ・講座名	開催日	参加者数
ひびきのサロン 「産業界が求める人材と連携大学院への期待」	10月10日	76名

○ カー・エレクトロニクスセンター運営事業

北九州市のカーエレクトロニクスを中心に次世代自動車技術に関する取り組みを広く発信するため、「人とくるまのテクノロジー展」への出展など積極的にPRを行った。

また、自動車関連企業や車載用電装品製造企業などを積極的に学研都市に招くとともに、各行政機関や海外調査団等79件の視察団を受け入れた。

【展示会への出展】

展示会等	開催日
人とくるまのテクノロジー展（パシフィコ横浜）	5月21日～5月23日
産学連携フェア（北九州学術研究都市）	10月30日～10月31日
北九州マラソン2015EXPO（西日本総合展示場）	2月7日～2月8日

(8) ロボット開発支援推進事業

○「北九州ロボットフォーラム」(研究会)の運営

会員数185名・機関(発足時45名・機関)

・ 総会・セミナーの開催

平成26年 6月18日	平成26年度総会	(参加者数: 26名)
平成26年 6月18日	定期総会記念講演	(参加者数: 101名)
平成26年10月31日	産学連携フェアセミナー	(参加者数: 81名)
平成27年 3月 5日	ひびきのサロン	(参加者数: 106名)

・ 情報発信・交流の促進

【展示会の開催】

平成26年6月18日～20日 ロボット産業マッチングフェア北九州2014

出展社数: 27社・機関、28小間

【展示会への出展】

展示会等	開催日
産学連携フェア(北九州学術研究都市)	10月30日～31日

【その他】

ホームページ管理運営、リーフレット英語版・ニュースレター(24号～27号)作成

○ 市内発ロボット創生事業

技術シーズや市場ニーズから、ロボット試作プロジェクト(研究会)を企画し、北九州ロボットフォーラム会員を対象にプロジェクト参加メンバーを公募、試作品の開発委託を行った。

【助成プロジェクト】

項目	内容	参画機関
中小企業向け製造ロボット(K-ロボット)の安全アームモジュールの開発	主に中小企業での活用を目的とした新しいロボット(K-ロボット)に必要となる安全マニピュレータ技術開発への取り組み	(株)石川鉄工所、イナバゴム(株)、アキツ・デザイン、北九州市立大学

○ 研究開発プロジェクトで得られた新技術・新製品の実証化・事業化コーディネート

項目	内容	参画機関
静脈血栓症予防のための小型下肢運動補助ロボットの開発(研究会)	・北九州市立八幡病院で実証テストを行い、実用化へ向けた課題の対策検討実施 ・事業化企業を県のコーディネータと共に探求	Roboplus ひびきの(株)、九州工業大学、北九州市立八幡病院
下肢患者・障害者のための住宅用歩行訓練ロボット開発プロジェクト	・在宅での使用に合わせた機能の見直しと小型・軽量化 ・産業医科大学で動作検証を行い、実用化への課題抽出 (H24、H25年度ロボット産業振興会議補助金事業開発案件のフォローアップ)	九州産業大学、ロボフューチャー(株)、総合せき損センター、(株)有菌製作所
医療用使用済薬剤自動識別ロボット開発(研究会)	使用済み薬剤瓶の識別と回収システムの実用化への取り組みとして、3次元検出システムの開発を推進 (H24年度市内発ロボット創生事業開発案件のフォローアップ)	北九州工業高等専門学校、オオクマ電子(株)、おんが病院

空港内手荷物カートの低コストロボット化技術の開発（研究会）	用途拡大を狙い、空港用カート（取り付け型電動化ユニット）を他用途のカートに取付け可能とする改良を実施 （H26年度FAIS成長分野新規参入支援事業補助金案件）	九州工業大学、 （有）ICS SAKABE
船舶の燃費向上を目的とした船底清掃水中ロボットの实用化プロジェクト	・旧型機の問題点への対策と機能評価を実施 ・並行して新型機を製作 （H25年度ロボット産業振興会議補助金事業開発案件のフォローアップ）	九州工業大学、 水産大学校、 RoboPlus ひびきの(株)
高速・高精度な運動競技場の自動ライン引きロボットの低コスト化プロジェクト	野球場でのライン引き実証実験を通して、技術的課題の抽出と対応、製品化についての検討を推進 （H26年度FAIS新成長戦略推進研究開発事業開発案件）	(株)アダチスポーツ、 (株)石川鉄工所、 TFプランニング、 九州工業大学
鉄道車両業界向けの車両自動洗浄ロボットの開発	鉄道業界における従来の車両外板の洗浄方法の課題解決のため、泡状洗剤を車両側面に均一に吹き付ける機構と柔らかくブラッシングする機構を備えた自動洗浄ロボットの開発を推進 （H26年度ロボット産業振興会議補助金事業案件）	八祥産業(株)、 （有）ICS SAKABE、 九州工業大学
中小企業向け産業用ロボット高度化のための次世代教示システムの開発	K-ロボットの開発において課題となっているロボット教示の簡素化技術（次世代教示システム）を開発 （H26年度新成長戦略推進研究開発事業＜二次募集＞開発案件）	(株)AID、九州工業大学
北九州発！中小企業向け製造ロボット（K-ロボット）開発	・安全アームモジュールの機構のアイデアを研究会にて募集 ・ワイヤ駆動アームの試作を完了 ・今後、安全制御システムの実装と評価を実施 （H25年度市内発ロボット創生事業開発案件のフォローアップ）	アキツ・デザイン、 前田機工(株)、 九州工業大学、 北九州市立大学

○ 産業用ロボット導入支援事業

ロボット技術を活用した地域企業のものづくり力強化と生産性向上を支援するため「産業用ロボット導入支援センター」を運営した。個々の生産現場に対応したロボットシステムの試作・開発の支援等により、地域企業のロボット導入を促進するとともに、ロボットの操作体験ができ、ロボットを活用した生産システムを学べる“ロボット道場”を運営した。

【人材育成や研究開発に関する講習会・セミナー等】

内 容	開催日・回数	参加者数
ロボット道場	10月～2月（計5回）	13名
システムインテグレータ講習	2月20日	15名
西日本製造技術イノベーション2014	6月20日	74名

【助成プロジェクト】

項 目	内 容	参画機関
磁性流体を用いた新しい産業用ロボットハンドの開発	フレキシブルにどのようなワーク形状でも段取り替えをせず、チャッキングができる磁性流体を用いた新しいマルチハンドを開発	九州工業大学、前田機工(株)
低価格外観検査用ビジョンシステム改造	<ul style="list-style-type: none"> • センサ（SPS02）の開発用ツールを使用し、H25年度開発“外観検査用ビジョンシステム”を改良 • 基本的な画像処理機能開発により用途を拡大 	九州工業大学、(有)ICS SAKABE
D-Handの実証試験の実施	D-Hand（ワーク形状の変更でもハンドを交換せずに幅広い対象のワークを把持できるハンドの一つ）を用い、各種形状の異なるワークの把持が可能であることを実証	(株)マルエム商会

3 地域企業への経営支援と創業の促進

(1) 中小企業経営支援事業

当財団の中小企業支援センターでは、以下に示すように、相談、専門家派遣、セミナー、創業・ベンチャー支援等の様々な支援活動を行っている。

この結果、新規開業35社、課題解決513件、マッチング成立14件、雇用創出約120人など、中小企業の振興に大きく貢献した。

○ 中小企業・ベンチャー総合相談窓口事業

中小企業支援センターに中小企業診断士等の専門家を配置し、中小・ベンチャー企業の技術から経営に至るまでの幅広い相談に応じるとともに、平日の相談が困難な創業予定者等に対し、休日に相談を実施した。

年間相談件数677件（うち休日相談件数2件）

○ 専門家派遣事業

中小企業支援センターに登録している中小企業診断士、技術士、税理士、社会保険労務士等の専門家（登録人員216名、平成27年3月31日現在）を必要に応じて中小企業に派遣し、個別の経営課題の解決にあたった。

派遣件数・回数：専門家派遣37件、延べ129回（うち、国の専門家派遣事業：専門家派遣19件、48回）

○ 情報収集提供事業

市内中小企業等が経営上必要とする各種情報を機関紙やホームページ、メールマガジン等を通して幅広く提供するとともに、各種セミナーを開催した。

セミナー名	開催日	参加者数
ネットショップサイトの設計書・指示書の作り方	6月14日	42名
実践起業塾2014	7月26、27日	22名
ネットショップ売上アップ塾	8月21日～、5日間	16名
開業資金の借り方講座	8月28日	15名
目標達成 売上獲得講座	9月18日	9名
中小企業会計啓発・普及セミナー(基礎編)	9月25日	12名
後継者育成セミナー	11月10日～、4日間	27名
「魅せる」ネットショップの作り方	11月29日	26名
中小企業会計啓発・普及セミナー(応用編)	12月11日	21名
北九州女性起業家フォーラム	12月13日	29名
デジカメでの商品写真撮影基礎講座	12月17日	48名
経理基礎セミナー	1月15、22日	50名
集客アップに必要なSEOセミナー	1月21日	42名
中小企業支援センター成果事例発表会	3月9日	14名

○ 創業支援

開業資金の調達や事業計画の策定など創業に関する相談や創業セミナーを開催することにより、創業希望者に対し開業までの支援を行った。

*創業実績：35件

○ 自動車産業振興事業

年間約150万台の生産能力を有する国内の一大生産拠点となった北部九州地域の自動車産業の動向に対応するため、自動車産業の生産技術の向上や受注拡大に経験と専門的能力を持った人材を活用し、市内中小企業の技術力向上や人材の確保・育成を図り、地場企業の自動車産業への新規参入や事業拡大を支援した。

事業名	助成対象企業名
取引拡大事業	大阪精工(株)、(株)岡崎製作所、(株)富士精工

○ 巡回指導・マッチングコーディネーター事業

巡回専門相談員が企業を訪問し、各種相談に応じながら支援施策の紹介等を行うとともに、幅広い人脈を持つマッチングコーディネーターがものづくり企業の取引先や提携先を紹介し、販路開拓を支援した。さらに、地場企業の取引拡大・受注機会増大を目的とした商談会も開催した。

項目	件数
巡回相談件数	282件/年
マッチング件数	87件（企業同士を仲介、面談）
上記のうち成約件数	14件（金額ベース1,987万円）
商談会開催件数	4回

(2) 北九州知的所有権センター運営事業

特許等の知的所有権に関する中小企業等への支援を進めた。

この結果、1,000回を超える中小企業への相談等への助言につながった。

工業所有権の閲覧、出願等に関する相談・指導、未利用特許の流通等を行う知的所有権センター（テクノセンタービル内に設置）を運営し、地元企業の新技術・新製品開発や新たな特許の取得促進を支援した。

- ・ 特許相談と支援・・・406件
- ・ 専門家（弁理士）による無料相談と派遣による支援・・・113件
- ・ インターネット出願件数・・・20件
- ・ 特許の流通促進活動・・・支援企業数延べ129社
- ・ 知財セミナー開催

テーマ	開催日	参加者数
元気な企業に学ぶ知財戦略 「大ヒット商品が誕生する4つの秘訣とは？」	1月21日	53名
オンリーワン企業の知的財産戦略	2月4日	26名

(3) ベンチャー育成補助事業

市内インキュベーション施設入居企業への経営支援やベンチャー企業支援ネットワーク「北九州ベンチャーイノベーションクラブ (KVIC)」による各種事業展開によりベンチャー支援を進めた。この結果、インキュベーション入居企業の売上高85%増などの成果につながった。

○ インキュベーション・マネジャー配置事業

市内インキュベーション施設に入居するベンチャー企業に対して、インキュベーション・マネジャーによる創業から事業化までのきめ細かい支援を行うとともに、学研都市の大学発ベンチャー企業及び市内ベンチャー企業の創出・育成を推進した。

【市内のインキュベーション施設（平成27年3月末現在）】

施設名	設置者	対象業種	入居者数	目的
北九州テクノセンター	(株)北九州テクノセンター	サービスなど	4	ニュービジネスなどの起業支援
北九州テレワークセンター	北九州市	情報通信関連	6	情報系、情報関連サービス業などの支援
九州ヒューマンメディア創造センターインキュベートルーム	(公財)九州ヒューマンメディア創造センター	コンテンツ	3	マルチメディア、コンテンツ系ベンチャー企業の支援
北九州学術研究都市産学連携施設	北九州市	研究開発、大学知財活用、大学発ベンチャー	4	大学の知財活用、研究開発型ベンチャー企業の支援
北九州市立起業家支援工場	北九州市	ものづくり、生産型	6	商品試作、生産のための工場を提供し製造業を支援
合 計			23	

○ テクノセンターインキュベーション室助成

独自の創造的技術やビジネスモデルを構築して起業を志す者に北九州テクノセンタービル内のインキュベーション室（4室）を安価に提供（家賃の2分の1を助成）した。

（平成26年度実績：4社）

○ 北九州ベンチャーイノベーションクラブ運営事業

ベンチャー企業の支援ネットワーク「北九州ベンチャーイノベーションクラブ (KVIC)」〔ベンチャー会員32社、一般会員100社、支援会員105団体、計237団体〕において、交流促進やビジネス推進に向けた各種事業を展開した。

① KVICフェア

KVIC会員の販路開拓及び新規顧客開拓支援のため、「KVICフェア」（展示商談会）を開催し、ビジネスパートナーの発掘及びマッチングを行った。

展示会等	開催日	参加者数
第9回KVICフェア（西日本総合展示場） 【ひびしんビジネスフェア2014と同時開催】	11月19日	3,461人

② 広域ビジネスマッチング事業

国内10箇所のインキュベータが共同で推進する「ビジネス・インキュベータ・ジャパン (BIJ)」の「協創マッチングフォーラム」等にKVIC会員が参加し、関東地域の大手企業と商談を行った。（支援企業：2社）

4 学研都市のPRと効率的な施設運営

(1) 学研都市の認知度の向上

○ 学研都市PR事業

学研都市及び当財団について、様々な機会や手法を活用して、国内外への情報発信を行った。

① 国内外研究者等の受け入れ

学研都市に来訪した多数の国内外研究者等に対し、学研都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携活動の取り組みや成果等を紹介した。

＊海外：36カ国・地域、164名

＊国内：84件、1,010名

② 積極的な情報発信

FAIS 事業概要(アニュアルレポート)や学研都市紹介パンフレットの発行、市政記者等クラブ向けのプレスリリース(35件)やホームページ・フェイスブックでの情報発信を積極的に行った。それらの結果、テレビや新聞等で177件の報道があった。

＊報道件数内訳：テレビ42件、雑誌26件、新聞109件

③ 工業系全国紙記事掲載及びPR冊子作成

学研都市での産学連携成果をPRするため、工業系全国紙とタイアップして企画連載記事(計10回)を掲載するとともに、その記事をもとにした冊子「北九州学術研究都市の産学連携最前線 Vol.2」を作成(5,000部)し、学研都市の活動を対外的に広くPRした。

④ 北九州イノベーションギャラリー夏企画展(サガ・バード博 in 北九州)への出展(再掲)

学研都市における産学連携活動を広くPRするため、北九州イノベーションギャラリー夏企画展に同時開催連動展としてPRブースの出展を行った。

展示会等	開催日	来場者数
「北九州の先端技術」展 (北九州イノベーションギャラリー)	7月12日～9月15日	2,286人

⑤ 学研サイエンスカフェ

学研都市の研究者と市民が自由な雰囲気の中で気軽に交流しながら最新の科学情報に触れられる「サイエンスカフェ」を2回開催した(延べ50名参加)。

回	テーマ	開催日	参加者数
第17回	みんなの声と息で電気を作ろう！ ～エネルギーハーベスト(環境発電)ってなんだ～	8月22日	30名
第18回	料理と科学の出会い ～料理の常識を変える？話題の分子調理法～	11月9日	20名

⑥ コミュニティFM放送による情報発信

学研都市に本社スタジオがある Air Station Hibiki(株)を活用し、毎週木曜日の午後3時から4時まで、学研都市と地域を結ぶラジオ番組「学研都市へ行こう！」を放送した。

学研都市内の大学(院)・研究機関・企業などの研究者や学生などが、研究開発情報の紹介、セミナーやイベントの告知、利便施設の紹介、キャンパスライフの紹介などの情報を発信し、学研都市とそれを支えるFAISの役割や成果をラジオを通じてPRした。

＊放送回数：51回

⑦ 展示ルームの改修

来訪者等がより気軽に利用できるように、レイアウト変更や照明用人体感センサー設置、無線LAN環境整備等の改修を行った。

⑧ 学研都市コンベンション開催助成金交付事業

北九州学術研究都市内で開催されるコンベンション等の主催者に対し、開催に係る経費の一部を助成することにより、学研都市へのコンベンション誘致と知名度向上に努めた。

＊助成件数：4件（九工大1件、北九大2件、早稲田大1件）

○ 学術研究都市地域交流事業(ひびきの祭)

地域の人々との交流の促進と北九州地域における学研都市の認知度の向上を図るため、「北九州市立大学ひびきの大学祭(響嵐祭)」にあわせて地元自治会など地域の方々との協同による「ひびきの祭」を11月9日(土)に開催し、約5,000名(大学祭除く)の来場があった。

最新デジタルテクノロジーを笑いながら体験する参加型サイエンスショー！「アキラボーイのデジタルサイエンス！ステージ」をはじめ、子どもから大人まで科学の楽しさを体感できる「おもしろサイエンスと遊ぼう！広場」「ふしぎ体験！LED工作教室～家族で省エネ大作戦～」 「ひびきの街の秋祭り(地元自治会等)」などの催しを実施した。

(2) 効率的な財団運営

○ 事務改善に向けた取組みとコストの削減

F A I S職員の積極的な意見を財団運営に反映させるため、平成24年度に「F A I S職員提案制度」を創設した。平成26年度は、32件の応募があり、職員提案審議会において審議した結果、8件の提案に取り組むこととした。

【取り組んでいく主な提案】

- ・学研都市留学生および外国人向「学研都市周辺生活便利マップ」の作成
- ・学研都市内部従事者専用ホームページ「F o r S t a f f」管理・運営体制の見直し
- ・新たなグループウェアの活用による業務効率の大幅アップ策

また、学研都市の施設全般において節電に向けた取組みを進め、電力使用量については平成22年度比16.0%の削減を達成した。

○ 利用者の利便性向上や安全・安心の実現

施設予約用ホームページにおいて、利用手順や申請書様式を掲載するなど、利用者にわかりやすいホームページに改修した。

また、学研都市内に高輝度LED照明を設置したほか、図書館に防犯カメラを設置するなど、学研都市利用者の安全・安心の実現に向けた取組みを進めた。

(3) 学術研究施設等管理運営事業

○ 学術研究施設管理運営事業

① 北九州学術研究都市の指定管理者として、学研都市内施設の効果的・効率的な管理運営を行うとともに、学研都市施設の利便性向上に向けた取組みを行った。

【管理を行った施設】

- ・産学連携センター(1号館) ・産学連携センター別館 ・共同研究開発センター(2号館)
- ・情報技術高度化センター(3号館) ・事業化支援センター(4号館)
- ・技術開発交流センター(5号館) ・環境エネルギーセンター
- ・学術情報センター ・会議場 ・体育館等体育施設

【研究室の入居状況（平成27年3月末現在）】

入居施設	室数	入居室数	入居企業等の数
産学連携センター（1号館）	31（31）	21（20）	10（9）
産学連携センター別館	9（9）	0（0）	0（0）
共同研究開発センター（2号館）	7（7）	4（4）	3（3）
情報技術高度化センター（3号館）	24（24）	8（9）	6（7）
事業化支援センター（4号館）	45（44）	36（31）	30（29）
技術開発交流センター（5号館）	48（48）	35（35）	19（20）
合計	164（163）	104（99）	68（68）

*（ ）内は平成26年3月末現在の室数、企業等の数

*5号館の大型実験室をブース単位に細分化（10区画）

*4号館は許可上1室を2室に分割したため室数1増

*企業等の数について、複数施設入居の場合は各々の施設で計上（重複を除外すれば61）

② 情報システム機能改善

各種システムの老朽化による更新の際に、機能・利便性向上や運用コスト削減を勘案した改修を行った。

区分	実施内容
キャンパスネットワーク関係	<ul style="list-style-type: none"> ・学術情報通信サービスなどの見直しの検討（次期再編成に向けた取組） ・学術研究都市施設内でW i F iサービスを開始 サービス提供エリア：図書館エリア、1号館展示ルーム、5号館交流室A、利用申請により、会議室、研修室 など ・不正通信制御装置の設置（安全・安定性確保） ・セキュリティ向上基盤整備（安全・安定性確保） ・ネットワーク監視センサー更新（安全・安定性確保） ・ネットワーク管理監視システム仮想サーバ更新（安全・安定性確保）
教育設備関係	<ul style="list-style-type: none"> ・会議場ワイヤレスマイクシステム更新（機能向上・安定性確保） ・教育用設備 UPS バッテリー交換（安定性確保） ・情報表示システム表示装置更新（機能向上・安定性確保） ・講義室 1～3 音響機器更新（機能向上・安定性確保） ・遠隔講義室 2 表示装置更新（機能向上・安定性確保） ・遠隔講義室 2 音響機器更新（機能向上・安定性確保）
図書館関係	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室での各種犯罪の発生抑止や事故防止のため、図書室エントランス天井部に防犯カメラを設置

③ 図書館の機能及びサービス改善・向上

区 分	実 施 内 容
一般図書室	・親子DVD上映会を春、夏、冬の3回開催
	・市民に児童書を中心にリサイクル本の提供を呼びかけ、ひびきの祭時に、充実したリサイクルフェアを開催。「しかけ絵本展」を併設 ・1人掛椅子のソファークロス張替 ・閲覧席に盗撮防止用仕切り板を設置 ・ハッピークリーン（図書の消毒器）を設置
専門図書室	・北九大の新1年生全員を対象とした「図書館リテラシー」講習を実施 ・外部講師によるデータベース講習会（EBSCOhost, JDream II）を実施
	・学生が読みたい本を自ら選ぶ「選書ツアー」を実施
	・就職・資格試験コーナーを設置 ・1人掛椅子のソファークロス張替 ・閲覧席に盗撮防止用仕切り板を設置 ・ABC装置（図書の自動貸出返却装置）を更新
	・集密書庫のカビ対策として、発生しやすい季節時に、湿度等の環境点検や清掃等を実施するとともに、新たに空気清浄器を設置
情報設備関係	*上記、情報システム機能改善の「図書館関係」に記載

【図書館利用状況】*（ ）内は平成25年度の実績

区 分	開館日数	入室者(人)	貸出利用者(人)	貸出冊数(冊)	蔵書数(冊)
一般図書室	(335)	(51,539)	(24,326)	(93,956)	(54,005)
	332	73,429	24,389	91,876	54,530
専門図書室	(335)	(110,242)	(9,601)	(20,092)	(98,270)
	332	104,843	7,906	17,240	100,035
合 計	-	(161,781)	(33,927)	(114,048)	(152,275)
		178,272	32,295	109,116	154,565

○ 北九州テレワークセンター管理運営事業

北九州テレワークセンターの指定管理者として、インキュベーション施設の効果的・効率的な管理運営を行った。

【管理を行った施設】

- ・オープンテレワークスペース
- ・スモールオフィス
- ・一般オフィス 等

○ 施設の入居状況

【入居状況（平成27年3月末現在）】

入 居 施 設	室 数	入居室数	入居企業等の数
スモールオフィス	18 (18)	12 (15)	12 (15)
一般オフィス	21 (21)	16 (16)	13 (14)
合 計	39 (39)	28 (31)	25 (29)

*（ ）内は平成26年3月末現在の室数、企業等の数

【収益事業等会計】

(1) 学研都市施設活用事業

収益事業（駐車場管理運営、自動販売機設置）を実施し、学研都市の入居者や来訪者の利便性の向上に寄与した。

【法人会計】

(1) 財団の管理運営等

財団を運営していくために必要な人件費及び事務費を支出した。